

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●菱田裕二騎手がJRA通算500勝を達成

3月15日(土)の1回阪神5日・第3レースではルシタニアが1着となり、同馬に騎乗した菱田裕二騎手(栗東・岡田稲男厩舎)は、現役36人目となるJRA通算500勝(7517戦目)を達成しました。

### ●五十嵐雄祐騎手が障害重賞全6場制覇を達成

3月15日(土)の1回阪神5日・第8レースとして行われた阪神スプリングジャンプ(J・GⅡ)ではヴェイルネビュラが1着となりました。同馬に騎乗した五十嵐雄祐騎手(美浦・田村康仁厩舎)は、現在障害重賞が実施されている6つの競馬場(東京・中山・京都・阪神・新潟・小倉／通常障害重賞を実施していない中京は含めず)における「障害重賞全場制覇」を達成したことになります。これは新潟と小倉で障害重賞が行われるようになった1999年以降では4人目の記録です。

### ●東田明士調教師と加藤公太調教師がJRA初勝利を飾る

3月16日(日)の1回阪神6日・第5レースではヴィーナスバブルが1着となり、同馬を管理する東田明士調教師(栗東)は、JRA初勝利(延べ7頭目)をあげました。さらに第8レースではスマートリアファルが1着となり、同馬を管理する加藤公太調教師(栗東)もJRA初勝利(延べ3頭目)をあげました。

### ●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

IFHA(国際競馬統括機関連盟)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」(2025年1月1日から3月9日まで)に実施された世界の主要レースが対象／単位はポンド)が発表され、サウジカップ(G1)を勝利したフォーエバーヤング(128)が、同レース2着のロマンチックウォリアー(127)を抑えて首位となりました。日本調教馬がワールドランキングの中間発表で単独トップとなるのは、2014年ジャスタウェイ、2016年エイシンヒカリ、2023年イクイノックスに次いで4頭目の快挙。またダート部門における日本馬のレーティングとしては、クロフネの125を超えて歴代トップとなりました。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●来年のJBCは金沢競馬場で実施、JBC2歳優駿は門別

2026年の第26回JBCは、11月3日(祝・火)に5年ぶり3度目となる金沢競馬場で開催されることが決定しました。JBCクラシックは2100m、JBCスプリントは1400m、JBCレディスクラシックは1500mとなります。また、JBC2歳優駿は、引き続き同日に門別競馬場で行われます。

### ●スプリングC(水沢)はボマイカイ【各地の主要3歳重賞】

スプリングC(3月9日、水沢、1400m)は、逃げたボマイカイ(牡、父ベストウォーリア)が後続に2馬身半差を付け、1番人気に応えて2歳時のネクストスター盛岡に続く重賞2連勝を果たしました。土佐春花賞(3月9日、高知、1300m)は、2番手から残り150mで逃げ馬を捉えた4番人気のフォーマルハウト賞優勝馬トサノマイヒメ(牝、父ゴールドドリーム)が3馬身差の楽勝を収めています。

### ●3月26日の京浜盃にナチュラルライズ、ハッピーマンらが参戦

京浜盃(JpnⅡ、3歳、3月26日、大井、1700m)は、カトレアSの覇者ナチュラルライズと兵庫ジュニアグランプリ優勝馬ハッピーマンが双壁、以下ソルジャーフィールド(北海道)、アメージング、ウィルオレオール(北海道)、ナイトオブファイア(大井)までが争覇圏内と考えられます。

### ●エンペラーワケアらが出走、3月25日の黒船賞(高知)

黒船賞(JpnⅢ、3月25日、高知、1400m)は、フェブラリーS5着のGⅢ2勝馬エンペラーワケアが中心、アームズレインと昨年の覇者で59%を背負うシャマルが続き、他ではナムラフランク、5年前の優勝馬ラブタス、アラジンパローズ(兵庫)の順に有力視されます。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●チェルトナムフェスティバルが開催される

イギリスのチェルトナムフェスティバルが現地3月11日～14日にかけてチェルトナム競馬場で行われました。この開催は4日間で13ものG1を施行するイギリスの障害競馬におけるハイライト。開催全体のメインレースで、14日に行われたG1チェルトナムゴールドC(5歳上、芝約5260m、障害数22)を制したのはM.ウォルシュ騎手が騎乗したアイノウザウェイユアシンキ(騾7、父ウォークインザパーク、愛G.クロムウェル厩舎)。3連覇を狙ったギャロパンデションを最終障害の手前でかわすと6馬身差をつけました。

### ●豪年度代表馬プライドオブジェニが復帰戦を制す

2023/24年の豪年度代表馬で、昨年11月9日のG1豪チャンピオンズマイルで鼻出血を発症して11着に敗れた後でオーナーから引退が発表されていたプライドオブジェニ(牝7、父プライドオブドバイ、C.マー厩舎)が3月15日にオーストラリア・ヴィクトリア州のコーフィールド競馬場で行われたG2ピーターヤングS(芝1800m)でC.ニューイット騎手とのコンビでレースに復帰。2023年のG1VRCオークスの勝ち馬ザルドジに2.75馬身差をつける逃げ切り勝ちを収めて、復活をアピールしました。